

# 2016/17シーズン スキー用具に係る国内運用ルールについて（2枚中の1）

SAJ競技本部 ルール・公認施設小委員会 2016年5月28日決定事項

## ●2016/17シーズン SAJ公認レース 年齢区分

生年	2006		2005		2004		2003		2002		2001		2000		1999		1998		1997		1996	
学年	小5早生まれ	小5	小6早生まれ	小6	中1早生まれ	中1	中2早生まれ	中2	中3早生まれ	中3	高1早生まれ	高1	高2早生まれ	高2	高3早生まれ	高3	1998早生まれ	1997早生まれ	1997早生まれ	1996早生まれ	1996早生まれ	1996早生まれ
FISルール	U 1 2 (ユース)				U 1 4 (ユース)				U 1 6 (ユース)				U 1 8 (FISレース)				U 2 1 (FISレース)					
SAJルール	K 1 (ユース)				K 2 (ユース)				SAJ-B級 国体少年組				シニア (FISレース)				SAJ-B級 国体成年A組					

- ※ SAJ公認大会では、競技用品ルールならびに競技ルールは、K2はU16、K1はU14ルールを適用する。ただしSAJユース競技会開催要領を優先する。
- ※ 中3早生まれ、中3・高1早生まれの選手は、SAJ-B級大会ならびに、国体少年組に出場できる。ただし、シニアのマテリアルルールを遵守すること。
- ※ 高1早生まれの選手は、JOCジュニアオリンピックカップK2、雫石SG（中学生の部）に出場できる。ただし、全国中学には出場できない。  
高1早生まれの選手が、K2レースに出場する際は、U16ルールのマテリアルの使用可能。

## ●スキー用具適応ルール

種目			DH		SG		GS		SL	
			女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子
1.2.1.2.2	ビンディングより前方部分の最大スキー幅	シニア	95mm以下	95mm以下	95mm以下	95mm以下	103mm以下	98mm以下	-	-
		ユース	-	-	-	-	-	-	-	-
1.2.1.2.1	ビンディング下部分の最も細い部分の幅	シニア	65mm以下	65mm以下	65mm以下	65mm以下	65mm以下	65mm以下	63mm以上	-
		ユース	-	-	65mm以下	65mm以下	65mm以下	65mm以下	-	-

65mm以下

スキー高	スキー板+プレート+ビンディング	50mm以下 全種目, 全カテゴリ, 男女共通
------	------------------	-------------------------

ブーツ高	すべてのハードおよびソフトパーツを含むヒールの底部からスキーブーツソールまでの間隔	43mm以下 全種目, 全カテゴリ, 男女共通
------	---	-------------------------

ヘルメット	<p>全てのFIS及びSAJ公認大会では、新規格対応表示（FISステッカー[RH2013]）が明示されているヘルメットの着用を義務とする。K1では17/18シーズンより義務とする。（16/17シーズンは推奨とする。）</p> <p>新規格ヘルメットルールはDH, SG, GS競技に適応される。なお、ナショナルエンブレムの貼付が必須である。</p> <p>公式用品ルール6.2.4によりヘルメットにはメーカー公式付属品以外の装着は禁止とする。</p> <p>SLヘルメットでは、耳の部分のソフトパッドを認める。EN1077かASTM2040認証であることを推奨する（FISレースにおいては必須）。</p>	
-------	--	--

ワンピース	<p>FISレースのDH, SG, GSで使用される競技スーツはFIS規定の空気透過率基準をクリアしたスーツのみが使用できる。新規格適合スーツにはプリントの適合ラベル[CS2015]が標記されるが、プロンピング(FIS管)も2017/2018シーズン終了時まで移行期間として運用される。新規格スーツが適用されるのは、オリンピック・世界選手権・ワールドカップ・ジュニア世界選手権・コンチネンタルカップであり、FISレベル及びユース大会は適用より除外される。</p>	<p>※DH用スーツの場合、プロテクター（パット）を競技スーツと一体にすることはできない。</p>
-------	---	---

## 2016/17シーズン スキー用具に係る国内運用ルールについて（2枚中の2）

●大会別・種目別スキー適応ルール(スキー長・ラディウス) ※スキー長はCM(センチメートル) ラディウスはM(メートル) 表記はどちらも最小値

種 目		D H				S G				G S				S L	
		女子		男子		女子		男子		女子		男子		女子	男子
カテゴリー／大会		スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	スキー長
C O C	コンチネンタルカップ	210	50	218	50	205	40	210	45	188	30	195	35	155	165
F I S / N C	FISレース 全日本スキー選手権	205	50	213	50	200	40	205	45	183	30	190	35	155	165 *1
S A J - A 級	インカレ 学生チャンピオン	-	-	-	-	200	40	205	45	183	30	190	35	155	165
	インターハイ・高校選抜 (高1早生まれ含む)	-	-	-	-	200	40	205	45	183	30	190	35	155	165 *1
	国民体育大会 (中学3年, 高1早生まれ含む)	-	-	-	-	-	-	-	-	183	30	190	35	-	-
S A J - B 級 (ユース競技会以外)	B級大会 (中学3年, 高1早生まれ含む)	205	50	213	50	200	40	205	45	183	30	190	35	155	165 *1
○SAJ-A級ユース競技会 ・全国中学 ・JOCジュニアオリンピックカップ ・全日本ジュニア選手権SG 中学生の部 ・全日本選抜ジュニア選手権SG 中学生の部	K 2 (U 1 6) 高校1年早生まれ 中学1年～3年	-	-	-	-	175	27	175	27	188以下	17	188以下	17	130	130
		-	-	-	-	183以上 推奨*2	30以上 推奨*2	183以上 推奨*2	30以上 推奨*2						
○SAJ-B級ユース競技会	K 1 (U 1 4) 小学5年, 6年	-	-	-	-	スキー長・ラディウス共に 体格, 体力, 技能に適応したスキー				130	14	130	14	130	130
										188以下 推奨*2	17以上 推奨*2	188以下 推奨*2	17以上 推奨*2		

\*1 : U18 (1年目・2000年生れ) SLにおいては、-10cmの許容差を認める。

\*2 : 標記の国内カテゴリーにおいては「推奨」であるが、国際大会においては遵守すること。

\* : スキー長さは(±1cmの許容範囲)が認められる。

## 2017/18シーズンより変更される男子GSのマテリアルルール（スキー板）について

先日行われたFISの会議で男子GSスキーのスペックが変更された。  
今会議直前まではFISの方針としてもスペック変更は2017/2018以降であると明言していたにも関わらず今回は急な決断であった。

今回の改定は、オリンピックイヤーの2017-18シーズンからの適用となる。

スキーの長さ：193cm以上（FISレベルは許容差-5cm/188cm）

先端幅：103mm以内

ビンディング下幅：65mm以内

ラディウス：30m以上

- 1) FISレベルのレースでは、女子のスペックに統合された。  
（FISレースでは許容差適用で現行の女子のスキー使用可能。）
- 2) 現行スペックのスキーも使用できる。
- 3) 今回の変更には、ワールドカップ選手からも肯定的な意見が多かった。

これは、男子GSスキーのラディウスを35mから30mにしたもので、FISレベルにおいては女子と仕様統合したものである。より回転性の高いスキーが使えるようになるが、変更後はFISレベルについては、R35・R30両方が使用できると考えられる。（現行セッティングでどちらが有利かは賛否両論がある。）

また、R35・30両タイプのスキーを履き比べることができるということになる。

なお、この変更は提案ではなく決定事項として報告された。